

岩手教区報

第341号
 立教184年5月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



コロナ禍にあつて 主事・祭事部長 鈴木眞理

コロナ禍にあつて、昨年に引き続き、この4月も東京・近畿圏に新型コロナウイルス緊急事態宣言が発令され、第4波到来ともいわれます。また、本部の4月月次祭の昇殿参拝も中止となり、直属教会長並びに教区長が代表で参拝されました。さらに、婦人会総会や子どもおぢばがえりも、当初は開催予定でしたが中止となりました。

おぢばに帰りたくても帰りにくい状況が続いておりますが、こうした状況の中でも、私の教会の最上級の会長様は、「帰って来るのを待っています」とおっしゃいます。親が待っているとおっしゃいますので、非常に帰りやすく、また、御用にも勇んで励ませて頂くことができます。

私の教会からおぢばまで車で90キロの距離を走りませんが、道中を含めてコロナ感染のリスクは、多かれ少なかれあるはずですが、そうしたリスクのところは、親神様にしっかり守って頂いて通らせて頂いていると悟り、感謝申し上げます。

一昨年の暮れからの新型コロナウイルスの拡大によって、生活様式が一変しています。三密を避け、人

の間隔をあけて身体的距離を確保することや、会話を
 する際は、可能な限り真正面を避けて大きな声を控え
 る。また、こまめな手洗いや消毒、マスクの着用が必
 要不可欠な状況になっています。

こうした節は、親神様のさんねんの現れとお聞かせ
 頂きます。世界中の人間が、人をたすける心、たすけ
 合つて暮らすことが親神様のお望みです。こと改めて、
 「人をたすける心」「ようきづくめの心」へと心の入れ
 替えに努めさせて頂き、日々、月々のおつとめに心を
 込めて、事態の治まりを祈念申し上げたいと存じます。
 また、毎月1日正午から、新型コロナウイルス感染
 拡大の終息と罹患者の平癒を祈念して、本部神殿で勤
 められるおつとめ。5月は12日に勤められますが、そ
 れに向けても、全教が一つになることこそ大切である
 と受け止めて、心してつとめさせて頂きたいと思いま
 す。

つとめさいちがはんよふになあたら
 天のあたゑもちがう事なし (十 34)
 はや／＼と心そろをてしいかりと
 つとめするならせかいをさまる (十四 92)



「老いと生きがい」

今や高齢化社会を迎えて久しい。夫婦揃って長寿の人、また、独り身の生活を余儀なくされている人も多い。時として「一言もしゃべらぬ日もあり 古いひとり」という境涯の人もあれば、独り身でも、演歌歌手・福田こうへいの追っ掛けをしたり、日本舞踊の趣味に生きがいを見出しているご婦人もいる。

筆者の両親は、共に80歳前の現役で出直したので、老いた姿を見ることはなかった。しかし、年老いた信者さん方と触れ合う中で感じた事は、「人は年を重ねると共に心の優しさ、いたわりが必要とされる」という事である。又、周囲から当てにされ必要とされる人は長い人生を生き抜き、教会に足を運んで御用に勇みながら長命される方もおられる。斯くいう筆者は、70歳代迄は、時間さえあれ

ば意欲的に出来た事が、83歳を過ぎたこの頃、時間があつても億劫だったり、集中できない緩慢な日が多くなつたように思われる。今、この原稿を書いている、以前に比べ、目や足腰の不具合や、記憶、思考力も、新幹線から普通列車に乗り換えたようなギャップを感じる。
 「子ども笑うな 来た道だ
 老人笑うな 行く道だ」と言われるが、その齢にならねば分からない事だ。

さて、年老いた人へのいたわり、思いやりは、手取り足取りのいたわりも有難い事だが、特に「生きがいを与えるほど大きな愛はなく、その人から生きがいを奪うほど残酷な事はない」とある(神谷美恵子著『生きがいについて』より)。
 生きがいは、誰の人生においても、常に必要な希望であると共に、特に、年老いた人には、生きがいを与えるほど大きな思いやりはない。然るに、長生きをするようになった感覚は、知らぬ間に、今日というかけがえのない一日の重さを軽くしかねない。お互いは年老いてもおたすけの上に念ずる心を持ち続けたい。「念ずる」とは「今を大切にすること」、他者のために「今」を祈りながら生きる事である。生きがいとして、余生を過ごしたいものである。

教会本部よりお知らせ

立教184年「子どもおぢばがえり」ならびに、「学生生徒修養会・高校の部」は中止となりました。
 また、5月1日に予定していた新型コロナウイルスの感染拡大の終息等を祈念するお願いつとめは、5月12日正午に延期することとなりました。

行事予定

【5月分】

- 1日 少年会例会 on line (9時)
- ” 教区小史編集委員会 (15時)
- 2日 主事会 (9時) 役員会議 (10時)
- 9日 みおしえ学習会スタッフ研修会 (10時)
- 13日 婦人会例会 (10時30分)
- ” 学生担当委員会例会 on line (19時)
- 15日 青年会例会 on line (18時)
- 16日 祭儀式勉強会 (10時)
- ” 女子青年例会 (10時)
- 23日 ” 教区小史編集委員会 (15時～18日)
- 29日 道の教職員役員会 (10時)
- 30日 二戸支部婦人会総会 (10時)
- ひのきしんスクール (10時)



献血推進委員会

「献血ひのきしん」実施報告

〜感染対策の中、真心の活動〜

今年で16回目となる「全教一斉ひのきしんデー・献血ひのきしん」が、4月29日、教務支庁にて実施された。曇り空の中、午前9時には日赤の移動献血車が配車となった。献血事業に携わっておられる日赤職員が、新型コロナウイルス感染症対策を万全に整えての献血ひ



のきしんとなり、20名の参加者があった。今回は盛岡支部管外から、10代、20代の青年層のひのきしん者の姿が見られた(花巻支部3人、奥州支部1人)。

「全教一斉ひのきしんデー」は年一度の統一行事ですが、献血は年一回だけではなく、命にかかわる、社会の要請に応えるひのきしんですので、進んで献血をお願いします。来年も開催させていただきますので、ご協力の程よろしくお願い致します。



青年会

「支部リーダーカンファレンス」

実施報告

教区青年会では、4月10日に「支部リーダーカンファレンス」を実施、4人が参加した。

当日は、感染症対策としてオンライン配信も行い、遠方の会員にはこちらを利用するよう呼びかけた。

まず、相澤元委員長より「昨年、行事が実施できなく寂しい年となったが、一方で今までの行事を見直す良い機会ともなった。何事も前向きに捉えて行こう」と挨拶があった。

その後、今年度の活動として、例会時に併せての献血ひのきしんや、移動例会、天理での集会、オンラインセミナーなどの開催について確認した。また、青年会活動を発信するために、青年会会報「勢輪手」をより活用していこうと話し合われた。



祭事部

「祭儀式勉強会」【5月16日】

祭事部(鈴木眞理部長)は、5月16日(日) 教務支庁において「祭儀式勉強会」を左記の通り開催します。

昨年度はコロナ禍によりやむなく中止となりましたが、今回はコロナ感染に細心の注意を払いながら開催致します。昨今、葬儀など葬祭場を中心に立式で勤められる場合が多いことから、今回は「立式による基本作法と祭儀式」について勉強致します。どうぞ参加下さいませようご案内いたします。また、ご婦人の方の参加も歓迎します。

記

日時 5月16日(日) 10時より
会場 教務支庁
講師 鈴木眞理部長
受講費 1000円(昼食・テキスト代含む)
持ち物 教服(持参できる方、ハッピも可)、笏板、筆記具
服装 ハッピ、足袋(タビックス)
申込み 支部ごとに5月10日までに教区へお申し込み下さい。



厚生部

「ひのきしんスクール」

【5月30日】

本講座では、発達障がい全体の像と利用できる制度やサービスについて学び、その上に立って発達障がいの当事者や家族への支援のあり方、おたすけについて考えます。

記

日時 5月30日(日) 10時〜15時30分(受付9時30分)
会場 教務支庁
講師 四戸航先生(岩手県発達障がい者支援センター「ウイズ」相談支援員)
杉岡信宏先生(錦行分教会長)
受講費 1000円(昼食含む)
申込み 支部ごとに5月15日までに教区へお申し込みください。
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から検温、手指消毒、咳エチケット等にご協力をお願い致します。また、中止、延期、縮小になる場合もあります。

立教184年4月29日 全教一斉ひのきしんデー



奥州会場



盛岡会場



九戸会場